

製品名: mGluR7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13864**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	102kDa

抗原情報

遺伝子名	GRM7
別名	GRM7; GPRC1G; MGLUR7; Metabotropic glutamate receptor 7; mGluR7
遺伝子 ID	2917.0
SwissProt ID	Q14831
免疫原	抗血清はヒト GRM7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 351-400

背景

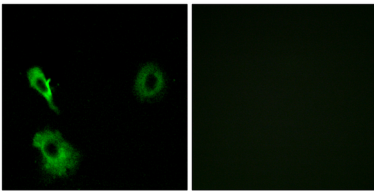
グルタミン酸代謝型受容体 7 (GRM7) ホモサピエンスの L-グルタミン酸は、中枢神経系の主な興奮性神経伝達物質で、イオンチャネル型と代謝型の両方のグルタミン酸受容体を活性化します。グルタミン酸作動性神経伝達は、正常な脳機能のほとんどの側面に関与

しており、多くの神経病理学的状態で障害される可能性があります。代謝型グルタミン酸受容体は、配列相同性、推定シグナル伝達メカニズム、および薬理学的特性に基づいて3つのグループに分類されるGタンパク質共役受容体のファミリーです。グループIにはGRM1とGRM5が含まれ、これらの受容体はホスホリパーゼCを活性化することが示されています。グループIIにはGRM2とGRM3が含まれ、グループIIIにはGRM4、GRM6、GRM7、およびGRM8が含まれます。グループIIとグループIIIの受容体は、サイクリックAMPカスケードの阻害に関連していますが、アゴニストの選択性が異なります。異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。機能: グルタミン酸受容体。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼ活性を阻害するGタンパク質によって媒介されます。類似性: Gタンパク質共役受容体3ファミリーに属します。サブユニット: PICK1と相互作用します。組織特異性: 脳の多くの領域、特に大脳皮質、海馬、小脳で発現します。神経細胞以外の組織におけるGRM7アイソフォームの発現は、アイソフォーム3とアイソフォーム4に限定されているようです。

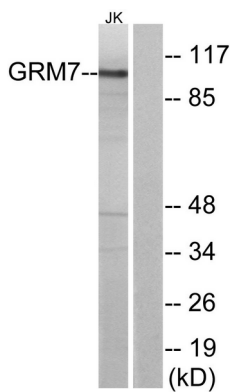
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

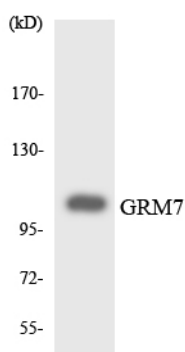
画像データ



GRM7抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GRM7抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GRM7抗体を使用したHUVEC細胞からの溶解物のウェスタンブロット分析。